

女性研究者支援の試み

Supporting Activities for Female Researchers in Science and Technology: Issues and Challenges

資生堂リサーチセンター ○養田 裕美, 島田 万里子

SHISEIDO RESEARCH CENTER, ○Hiromi Minoda, Mariko Shimada

E-mail: hiromi.minoda@to.shiseido.co.jp, grant_jimukyoku@to.shiseido.co.jp

WEB: <http://group.shiseido.co.jp/rd/doctor/grants/science>

1. 指導的女性科学者育成の意義と試み

日本では科学技術分野における優秀な人材の確保が喫緊の課題であり、対策の一つとして、数少ない女性研究者をどう支援し、活躍いただくかに注目が集まっている。現在でも日本の研究者に占める女性の割合は 14.0% (特に工学 9.2%, 理学 13.0%) に留まっており、諸外国 (米 34.3%, 英 38.3% など) と比べて下回っている^{*}。また講師・准教授・教授と職位が上がるにつれて女性の割合が低くなる。資生堂では指導的研究者を目指す女性の支援を目的として 2007 年に「資生堂 女性研究者サイエンスグラント」を設立し、未来を切り拓く意欲に溢れた独創性の高い研究へ年間総額 1,000 万円の研究助成を行っている。これまでに歴代受賞者 59 名中 24 名が昇進や栄転されるなど、幅広い活躍を遂げている。また、受賞者をゲストに迎えた市民向け「サイエンスカフェ」を 2011~2014 年に 8 回実施した。これまでに、女子中高生を中心とする 200 名以上の方々が参加し、理工系キャリアへの意識が高まったとの結果を得ている。

2. 本グラント受賞者の意識と今後の課題

資生堂女性研究者サイエンスグラント受賞者 59 名へアンケート調査したところ、リーダーとしての意識を強く持つようになったきっかけとして「役職を与えられたとき」という回答が最多であった (図 1)。また、今後のステップアップに必要なこととして「研究者としての人脈」「所属組織への貢献」といった回答が目立ち、意識の高さがうかがえた (図 2)。男女共にリーダーを育てるには、産学・学協会が一体となって、育児・介護支援に留まらない、積極的かつ根本的な改革を推し進める必要がある。向上心ある女性研究者の力をいち早く取り入れ、人材を多様化させた分野が、国際社会で先行できると考える。本グラントは受賞者たちの多彩なキャリアアップ支援を通して、女性比率の低い工学・理学分野で意思決定機関に加わる女性リーダーをいかに増やしていくか、どうすれば日本の科学技術の持続的な発展に貢献できるかを、今後も検討していく。

※参考文献：内閣府 男女共同参画白書 平成 25 年版

資生堂女性研究者サイエンスグラント受賞者 59 名を対象としたアンケート調査結果 (2013 年 6 月実施)

図1 指導的研究者 (リーダー) としての意識を強く持つようになったきっかけ

(有効回答数 54 名、複数回答可)

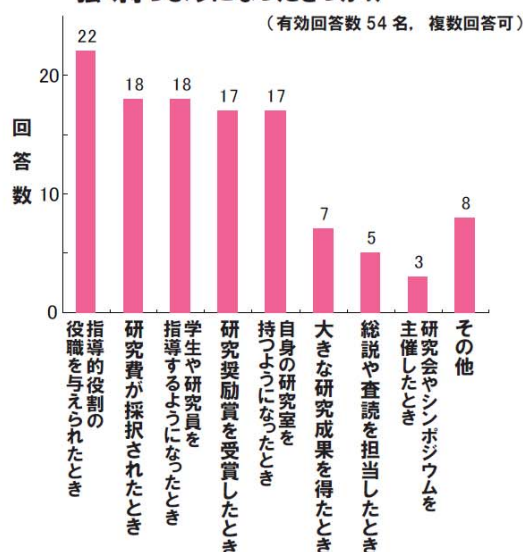


図2 ご自身が指導的研究者へと今後さらにステップアップしていくうえで特に必要なことは？

(有効回答数 54 名、複数回答可)

